

お わ り に

平成 13 年 6 月 8 日に大阪教育大学教育学部附属池田小学校で、23 人もの児童教職員が殺傷されるという痛ましい事件が発生しました。日本の教育史上例をみないこの事件は、多くの方々言葉では言い尽くせない多大の苦しみと悲しみをもたらしました。

本調査研究会は、この事件を契機に平成 14 年 4 月に発足し、6 月から本格的な調査研究に着手しました。委員会は事件の再発防止に向けて詳細な考察・提言を行うため、防犯や安全管理に関する専門的知識を有する委員によるワーキング・グループを編成しました。13 回の調査研究会による討議、21 回のワーキング・グループによる調査研究の結果をここに報告書としてまとめることができました。

附属池田小学校での事件後も侵入事件は相次ぎ、今や学校への不審者侵入者対策は焦眉の課題となっています。最近でも横浜市内の小学校へ刃物を所持した者が侵入しました。報道によるとこの侵入者は、通常児童が利用する通用門から校内に入っており、校門における出入りの管理を一層徹底する必要性を改めて感じさせました。本報告書が、各大学・各附属学校で講じられる対策の参考になれば幸甚です。

学校を取り巻く環境は、めまぐるしく変化しています。各大学・各附属学校では、変化に対応できるよう、教職員の訓練や点検を行い、不断に意識の高揚を図る必要があります。

また、時間的制約もあり、本調査研究会では今後の課題としている事項もあります。今回の報告書は学校内での不審者に対する安全管理を中心にしていますが、学校管理下における事件として、最近では学校と自宅間の登下校時における事件が頻発し、大きな被害も出ています。学校管理下で、児童生徒等を守るためにも登下校中における危機管理の在り方も緊急に求められています。このことに対しても全国的な取組みが関係機関によりなされることを強く要望いたします。今後も各大学・各附属学校において、本調査研究会で取り組みまとめました成果を具体化して実践するとともに、さらに考察を加え、改善していただければ幸いです。

今回の事件により文部科学省、大阪教育大学及び附属池田小学校は、8 人の児童のご遺族との間に謝罪、損害賠償、再発防止策からなる合意書を交わしました。その中で、文部科学省及び大阪教育大学では附属学校の安全管理の状況の把握や特段の財政措置を講じなかったこと、また、附属池田小学校においては不審者に対して教職員の十分な対応策がなされていなかったことを確認し、それを受けて今後二度とこのような事件が発生しないよう、有効性のある安全対策を行うこととなりました。

大阪教育大学では、毎年 6 月 8 日を「大阪教育大学学校安全の日」と定め、学校安全を全国に発信する取組みを行っていきます。皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

おわりに

調査研究を終え、学校は安全なところではなく、安全な環境をつくるどころだと改めて感じました。

末尾となりましたが、本報告書をまとめるにあたり、事件遭遇後、現在も附属池田小学校に勤務する教官の声をお聴きし、平成14年8月の盛夏の折りには、附属池田小学校事件でかけがえのない8人の幼い尊い命を奪われたご遺族の皆様には、事件現場で学校安全の必要性や今回の事件についてご説明いただきました。これもひとえにこのような事件の再発を防止するため、また安心できる学校を目指した安全対策を一心に期待されるが故の、ご心痛を越えたご協力であったと重く受けとめ、改めて感謝申し上げます。

また、快く資料をご提供いただきました学内外の関係団体、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

平成15年11月

国立大学附属学校における安全管理の在り方に関する調査研究会 主査
大阪教育大学教育学部附属学校部長 岸本幸臣